

# 新聞新報

2007年(平成19年)4月13日 金曜日

## 音のごう謎？ 兆前地震能登

能登半島地震に見舞われた石川県輪島市門前町地区で、本震があった3月25日の前に、多くの住民が「ドン」「バリバリ」などという異常な音が聞こえていたことが分かった。住民らは「今まで聞いたことがない音だった」と話しており、「地震の前兆だったのでは」と見る向きもある。

地区の中心、門前町門前の総持寺で受付を務める女性2人が「それ」を聞いたのは1か月以上前。2、3日に1度の頻度で何回か聞こえた、という。「どこから聞こえているかわからない、山が崩れるような恐ろしい大きな音だった」と口をそろせる。

日本海沿いの集落でも、門前町道下の男性(35)が地震発生の1、2週間前にこの音を聞いていた。「1日に2、3回聞こえたこともあった。振動をビリビリと感じ、飛行機の音とは違っていて、証言する。門前町鹿磯の女性(54)は、数日前に何回か聞いた。「バイクを走らすような音がした」と振り返る。いずれのケースも、音の発生に決まった時間帯はなかった、という。

金沢地方気象台は「異常現象の報告は受けていないが、大地震の前にはこのような現象が見聞された例はある。事実関係や原因はわからない。大阪市立大名誉教授の弘原海清さん(74)（情報地質学）は「阪神大震災などでも本震に先立つ異常な音の証言があった。原因ははっきりしていないが、地下で岩盤が壊れる衝撃が地表に出て、空気を振動させた可能性もある」と述べている。

地震の前兆では、とされるようになった現象は「宏観異常現象」と呼ばれ、地下水の水位変動や、雲など気象の見慣れない動きなどが、前兆として一部に指摘されることがある。いずれも観測記録の裏づけがなく、地震との因果関係の科学的立証は至っていない。

### 1か月～数日前「山が崩れるよう」

マンション耐震強度偽装

### アパ側が補強工事へ

新潟県三条市にある「アパ」グループの分譲マンション2棟で耐震強度不足が見つかった問題で、事業主の「アパ」（本社・東京）は12日、「速やかに補強工事を実施する」とホームページで明らかにした。費用もアパ側が負担する方針。

三条市の調査で、2棟の耐震強度は基準の85%しか満たしていなかった。うち1棟には47世帯が入居するが、補強工事に伴い、住民が一時退去するかどうかは不明。

市によると、耐震強度の構造計算で改ざんがあったのは9階のうち1～3階の耐震壁で、補強工事もこの部分を中心になるとみられる。建設中のもう1棟（49戸）は6戸が契約済みだったが、3戸が契約を解除した。構造計算は2棟とも「田村水落設計」（富山市）が担当した。耐震強度を偽装した理由について、三条市は「偽装しても建築コストはほとんど削減されず、真相は不明」としている。